

芦屋市議会議員

あしやしみんのこえ

ともこ
たかおか知子
市政報告

モコモコ通信 No.1

発行：あしやしみんのこえ
(たかおか知子)
芦屋市精道町7番6号
本庁舎南館 3F 市議会事務局
会派：あしやしみんのこえ
TEL：0797-38-2001

2019年 初号

子育て現役
女性の力を市政に！

Facebook や
LINE@で
新情報を公開
しています



6月11日から議員としてスタート

多くの皆さまにご支援を賜り、この度市議会議員に初当選をさせて頂くことができました、孝岡知子（たかおかともこ）です。感謝の気持ちを込めまして皆さまのご期待に添える政治を行うために誠心誠意努めてまいります。私は既成概念にとらわれず、先見性を持って現況を打破することを信条としよりよい芦屋を創っていくために尽力したい次第であります。広い視野で公平に判断し、どの世代からも愛され続ける芦屋のために、責務を果たしたいと存じます。今期、新たに結成しました「あしやしみんのこえ」という3人の会派に所属し総務常任委員会に配属しております。皆さまと行政と議会との距離をもっと近くに感じていただけるように、身近な存在でいられる市議を目指してまいります！

気になる市政ニュース「ちょっと待った！」

環境処理センターのごみ焼却施設の排ガス中の水銀濃度が排出基準値を超え8月27日から焼却炉の運転を停止していました。この日の午前中は議員の市内施設見学会があり、何と同場所に視察に訪れていたのです。「廃棄物を貯留するごみピットは、最高どの辺りまで貯まったことがありますか？」との質問に「定期的に焼却しているので上まで貯まる状況になったことはありません。」という説明があり、まさかそんな会話を交わした後で水銀濃度の超過が判明し、処理場のごみが溢れかえる事態をむかえるとは思いませんでした。現在は原因究明の結果、水銀の残留による異常値は確認されず運転を再開していますが、引き続きの究明及び改善計画を行い、水銀対策費の補正予算も提出されました。驚いたのは水銀温度計は約2本で水銀排出源の可能性の相当個数になるとのことで要注意だそうです。また、おもちゃの中にそのまま入って捨てられがちなボタン電池も水銀含有量がありますので「その他燃やさないごみ」の日に他のごみと分けて中身の見える袋で出すようになっています。今後はごみとして排出される段階での分別の見直しと継続的な啓発も実施されます。

ホームページ <https://takaoka-tomoko.me>

Eメール takaoka.tomoko@ashiya-city-council.jp



通学路、学校区の見直しについて

近年、子供の通学中の事故や不審者による事件が多発しています。当市の公立小学校へ、保護者が安心して子どもを送り出せている環境にあるのかについて疑問を感じておりました。全ての**児童に安心安全な通学環境を提供**するためにも、交通量の多い地区や、遠方から通学している児童の通学路に対する危機感をどのくらい持っているのかということを確認いたしました。今後、少子化が進むことが予想されていますが、子どもが「生きる力」を培うことができる学校教育を、将来にわたり保障する観点から、これまでの**学校のあり方を見直す**ことを文部科学省では示されています。昭和31年当時とは学校を取り巻く社会状況や住環境も変わってきており、**児童数の偏りや、学区間での差もますます大きくなってきている**ように感じています。それを踏まえた上での適正配置の見直しや、校区外から就学できる選択の条件をつけるなど、地域のバランスを考えた**教育環境のあり方を検討する時期**にきていると考えておられます。安心して通える小学校として、まずは通学に対する不安を取り除いてあげることが大事であると伝えました。いつまでも昔の教育理念にとらわれず、**最新の社会状況を視野に入れた学校環境**を子どもたちに提供できるよう、教育にかかる費用の必要性を感じています。



地域コミュニティの拠点について

従来から芦屋市は、**小学校を核としたまちづくり**を行ってきました。少子化に伴い、学校を独立した施設として考えるだけでは、児童数の減少をもとに維持が難しくなるのは当然のことです。一方で、**小学校は地域住民にとっての身近な公共施設**であり、また、地域のシンボリックな場所として避難所施設の設備も整っております。仮に廃校になった場合、地域コミュニティに一定の「痛み」を与えることにもなります。児童減少から単学級になり廃校へという考えではなく、**まちづくりの観点から公共施設の存続**を重点におき、日頃から地域の拠点として活かす準備をしておくことが重要になってくると考えます。そこで、児童数減少に伴った**複合的な学校施設のあり方**について質問いたしました。近頃は、余裕教室の転用等による、他の公共施設との複合化、図書館・プールなど、**転用型小学校として地域づくりの観点から**学校施設を活用したり、というような他市での取り組みも増えているようです。また、近距離に小学校がない分断した区域では**地域コミュニティに市内格差**も出てきています。小学校と同等の避難所施設の整備、コミスクなど地域間に偏りを見せないためにも、どのように改善していくのか気になるところです。今後は、**地域の拠点である公共施設**を維持する方法を見直すことが必要になってくるはずです。



たかおか知子の一般質問の内容及び
答弁の録画映像が、芦屋市議会の
議会中継からご覧いただけます。



会議録検索システム
からも、議会の会議録が
閲覧できます。

無電柱化エリアにおける浸水対策について

2018年に発生した台風21号の際、**無電柱化エリアで浸水被害が起こった**ことで、電柱の代わりに地上に設置されるトランスボックスというものが、水害には弱いという事実が発覚いたしました。阪神間の中でも芦屋市は、歴史的にみても水害が多かったことから、少なくとも浸水が予測される地域に関しては**トランスボックスの防水対策も事前に関西電力へ提案を講じておく**必要があると考えます。水没したことで起こる停電が発生しており、電柱と違って故障箇所がひと目でわからないという点もあることから、点検に時間が掛かるデメリットも判明しました。一度水没した機器に関しては、サビによる故障の危険性が格段にあがります。そのため、突然機能しなくなり停電することを避けるため、部品の取り替え工事が必須となってきます。関西電力によりますと、この度**南芦屋浜地区での地上機器の取り換え作業を11月から12月に予定**しており、その間に停電が発生するようです。この修繕工事の案内は関西電力が対応しますが、当局がこの事態を把握できていないのならば、無電柱化を推進しながら無責任ではないかととられかねません。そこで、浸水に伴う修繕の浪費を防ぐ防水方式について意識していないのかを質問致しました。市民の暮らしを守るライフラインについて、**防水対策の指導と連携は、行政フォローとして重要**であると考えております。

働きの方の方向性について

景観もよく閑静な住宅地で住みやすいと言われてきた芦屋市ですが、一方でこのようなこともささやかれるようになっていました。**市政に対して「優しくない」という言葉**です。「子育て世代に優しくない」「商売人に優しくない」等の声が聞こえてくる状況を心配していました。芦屋市政は住環境・景観対策に力をいれることで人を呼び込むことを重点的に行うことで芦屋のブランド力を高めてきましたが、その反面、**取り残されていると感じている市民の声**もあります。中でも「屋外広告物条例」が施行され日本一厳しい規制と言われてたり、保育所建設を断念し、子育てできる環境が整わないことが報道されたりしたことが、ある意味マイナスイメージとして影響していなかったのが気になりました。近年は、ひとり親家庭や、女性の社会進出、共働き世代も増えており、市内でのパートタイムや起業支援を求めている主婦が多い傾向にあります。そこで、市内で働ける場所をもっと充実させるための「市民の雇用創出」や「企業誘致」について質問しました。結婚して環境が代わり職場から離れた女性の中には、優秀な人材が多く、**市内で生活水準に合わせた働き場を支援**することで選択肢が増え、子どもの側で働ける環境が充実していることが、**子育て世代から見て市政の魅力を引き出す**ことにつながります。

議案 昭和39年から三井住友銀行と三菱UFJ銀行の2行が1年置きで指定金融機関となっていたが、昨年6月に三菱UFJ銀行から辞退のため、三井住友銀行を指定しようとする。指定期間は会計年度に合わせ、本年7月1日から令和2年3月31日までの9カ月間との補足説明。

質問 三菱UFJ銀行が辞退した理由は？

答弁 三菱UFJ銀行から「これまで年間7万200円であった委託料を1,500万円に、振替手数料を1件につき5円から10円に、また今まで無料であった組戻手数料を1件につき800円にしてほしい」と要請があり、本市ではその額を負担できないとお断りをしたところ、辞退の申し出があったものである。

質問 今年の7月1日以降、三井住友銀行はどのような条件で引き受けることになるのか？

答弁 現在と同じ条件では難しく、人件費として2人派遣で400万円プラス消費税に、口座振替は近隣市に合わせる形で1件につき5円から10円に、組戻手数料については1件につき600円となる。

質問 三菱UFJ銀行のATMはそのまま残るのか？

答弁 要望はしてきたが撤去になる。新聞報道などでは、三井住友銀行と三菱UFJ銀行がATMの相互利用を計画しているという報道もあるため、不便さは多少解消されるのではないかとみている。

質問 ネットバンキングでの公金収納の推進は？

答弁 最近コンビニを初め、ネットバンキングでも公金が収納されている。全国銀行協会からも各市で異なった納付書などを統一できないかとの要望が出されているため、対応していく必要がある。

たかおか

『金融機関の預金獲得競争時代は、指定金の獲得でしのぎを削ったとされていますが、現在は自治体からの利益が減り採算がとれないため、大手銀行が指定金融機関を辞退しています。この動きは三菱UFJ銀行だけのことではないので、一社に頼らず別の対策を早めに講じていたほうが良いのでは？』

Vol. 1

「市民派目線で見たい！」 新人議員の本音シリーズ



初めての定例会、委員会と始まった印象は・・・
簡潔にスムーズに遂行させる長年の傾向があることで本会議がある意味パフォーマンスに見え、面白味にかけているのではないかと感じました。自分の考えがありつつも周りとの調和を取らないといけないという独特な空気感が議会にはあります。公の場で討論し納得の行くまで議論を聞いた後、本会議場で最終的に手の上げ下げを決断できるものと思っていたのですが進行を妨げることなく行うためか事前の打合せが行われ、淡々と進んでいく議決に戸惑いました。以前から、私は地方自治体の会派構成の意思決定について、いくつか疑問を感じていました。会派をつくる事は情報を多く集約でき、仲間で助け合うことで解決策も増えるので良いと考えています。ただ、地方自治体は国政ではないのに賛否の足並みを

必ず揃えなくてはいけないという、政党や会派のルールや強制力に左右されつつあるそんな議事をみていると私には違和感が残りました。一番に重視することは「芦屋市にとってどうなのか？」という判断をすることであって、そこには政党も会派もなく、是々非々でひとつひとつの議案と向き合い、本会議場の公の場で意見を調整し賛否を導き出せば議決の結果は自然と大きく変わってくる気がします。地方の自主制を引き出すために、各議員は市民の代表であるという意識を先に持ち、対個別で時には同じ意見、時には違う意見となっても良いはず。全議員が個々の責任で自由な発言ができ、改善に向けての進歩を議論の中で導き出せていけたら議員の向上心も高まっていきます。
初年度は、年間行事をこなしながら覚えていくことで精一杯かもしれませんが、市民の皆さまからの「ありがとう」のために、職責を果たすにはどうすればいいのかを真剣に考え、「これおかしくない？」という自分への問いかけと情報収集に努めてまいります。

民衆の味方！「あしや しみんのこえ」 所属 会派メンバーのご紹介

「どんな時も新人を守ってくれる、人情味あふれる幹事長」

「いつも仲間思いで支えてくれる、まっすぐで頼れる同期」

●長谷 基弘 (建設公営企業常任委員会所属：委員長)

●中村 亮介 (民生文教常任委員会、決算特別委員会所属)